

新型スロープ不具合について 車いす使用者のみなさんと意見交換 NPO法人「ちゅうぶ」訪問

10月15日、新幹線関西地本と関西地区分会はNPO法人「ちゅうぶ」を訪問し、新型スロープ不具合について車いす使用者のみなさんと意見交換をしました。



「ちゅうぶ」の尾上代表理事をはじめ車いすを使用されているみなさんから、「段差を解消するためのスロープに段差があるのはおかしい」「スロープの耐久性を強調するが安全性はどうなっているのか」など貴重な意見をいただきました。

新型スロープの不具合だけでなく、新幹線車両の車いすスペースや東京駅ホームの段差・隙間縮小対策などについても意見をいただきました。

JR東海、サービックは、車いす使用者の声を受け止め、 新型スロープの不具合を早急に解消すべきだ！



新型スロープは、2020年6月に新幹線各駅に配備されました。ところが、スロープとホームの接する部分に角度があり、車いすの前輪が引っかかるという不具合が発生しました。引っかかったまま車いすを押すと前のめりに転倒する恐れもあります。

私たちJR東海労は、新型スロープの不具合解消について申し入れを行ってきました。しかし、JR東海は「現在導入している渡り板に安全上問題ない」「ホーム側端部の改良は検討項目に上がっているが現時点で変更する予定はない」と不誠実で無責任な回答（2020年10月19日）をしています。

JR東海、サービックは、車いすを使用されているみなさんからの声をしっかりと受け止め、早急に新型スロープの不具合解消に向けた対策を講じるべきです。

